

令和元年度「町長と語る会」概要

日 時	令和元年 8 月 19 日（月）午後 7 時 00 分～午後 8 時 00 分
場 所	下諏訪総合文化センター 小ホール
テーマ	「女性が活躍するまちづくり」
パネリスト	下諏訪北小学校 校長 唐澤 裕子さん 下諏訪町スポーツ推進委員会 西山 美紀さん みたまちおかみさん会 河西 優子さん 防災ネットワークしもすわ 会長 高橋 敦子さん

（パネリスト）

- ・ 地域の人達がコミュニティスクールの活動を12年間続けていて、学校を大切にしてくださっていて、ありがたいと思っています。町が中学生や高校生の意見を大切に、図書館に飲食スペースが欲しいという意見から、動いてくださっている話を聞いたり、通学路のバス停に、「社中学校美術部 地域看板製作中」と書かれていて、どんな看板を作るのかなと、とても楽しみです。子ども達も活躍できる町だなと、とても気に入っています。
- ・ ニュースポーツを進めるにあたって、人が集まらないとか、一度参加しても、来年は来なかったりとか、色々な課題があります。自分のライフスタイルとして、マラソン大会に出ています。楽しかったり、興味があったり、面白いと思えば人は参加すると思います。色々な人の知恵を借りながら進めていければ、人が集まってくると感じています。
- ・ 女性に限らず、色々な分野で隠れた才能を持っている方が大勢います。そういう人達を引っ張り出して、活躍させることができれば、町が元気になっていくと思います。
- ・ 下諏訪町には大社やボートがあって、自然が豊かで、イベントを通じて何かできれば、みんなが活躍できると感じています。
- ・ 空き店舗対策や若い人の移住について15年くらい活動しています。夏休み期間中に子ども達とクラフトをやる活動もしています。高齢化が進んでいますが、若い方達もたくさん来ていただいているので、一緒にまちを作っていくのには、どうしたらいいのかな、と感じています。
- ・ 下諏訪町には、「防災ネットワークしもすわ」に加入している防災士が115名います。自主防災会は各地区にありますが、1年任期の役員が防災訓練を一生懸命やって、そこで活動が終わる中で、災害が起きたときに本当に町は大丈夫だろうか、という意見が「町長と語る会」に出されたことも、多くの防災士が町に生まれたきっかけの1つだと聞いています。女性の視点や生活者の視点が、防災意識日本一の町を目指すために大切だということに気付いて、会長という立場に育てられたと思っています。小学生や中学生、高齢者の方達が高い意識を持って、大災害に立ち向かえる町民をたくさん生み出したと思い、色々な防災講座を工夫してやっています。

（町 長）

- ・ 女性だから、男性だから、子どもだから、お年寄りだから、高齢者だから、ということではなくて、住民が性差なく、年齢差もなく、まちづくりに参加できるまちが理想だと思っています。
- ・ 御田町には若者が集まって来ますが、その魅力はどのように発信されていますか。

(パネリスト)

- ・基本的には口コミです。宣伝すると色々な人が来てしまうので、いいお友達のお友達は、いい人だ、という感じで、繋がりがあがる中で紹介してもらって、来てもらうことが大事だと思っています。
- ・母が言うには、子どもが遠くに出て行ったときに、周りの人にお世話になったはずだし、声を掛けてもらえれば嬉しかったと思うので、同じことを来た人達にしてあげなきゃいけない、ということで、声掛けや一緒に活動することを熱心にやっています。引っ越ししてくる日が決まれば、タオルを5本用意しておいてと伝えて、近所の人に一緒にあいさつをしに行きます。新しい人はどんな人か、お互いに心配な中で、クッションとして地域の人を立て、どこから来て、こんなことをするんだよ、と伝えてきたことが、迎え入れる側として成功してきた事例だと思っています。
- ・子どもの夏休みの体験では、町に来てクラフトを始めた方達に声を掛けています。皆さんからは、儲かるからとか、人が来てほしいから、というよりも、地域をよくしてもらっているから地域の子どもの役に立ちたい、ということを言われて感動しました。

(パネリスト)

- ・地域で子どもの夏休みに対応してくれて、とてもありがたいと思っています。多様な子ども、多様な家庭、過酷な環境で生活をしている家庭もあります。学校も精一杯、子どもや家庭と向き合っていますが、限界があります。見守り隊の方達も、毎日通学路に立って熱い思いを持って、1、2年生は家まで必ず送り届ける、という活動をしてくださっています。夏休み子ども研究所では、学校では用意できない活動ができます。ほかに、夏祭りや津島様など、地区の行事が充実していて、子どもどうしの繋がりが、子どもと大人の繋がりができます。地域の人と繋がる場を作っていくことが、子ども達が下諏訪町や下諏訪の人をもっと好きになって、自分が大人になったときに、また下諏訪の人のために、という子に育っていくと思います。

(町長)

- ・スポーツ推進委員として色々な取組をされて、人集めにもご苦労いただいています。課題や感じているところがあると思いますが、どうですか。

(パネリスト)

- ・楽しければ人は集まると思います。秋宮リンクの氷上祭では、声をかけなくても、毎回たくさんの方が来てくださって、盛り上がり楽しい大会になっています。そういう雰囲気で行こうと色々なイベントをしますが、毎年参加してもらおうことの難しさを感じています。
- ・諏訪湖マラソンは普通のマラソン大会ですが、あれだけの人が集まるのは、フラットで諏訪湖の周りを走れるなど、条件が揃うと、毎回出ようという気持ちになるからで、小さい大会でも、毎回出たいと思う大会は、町の特徴を持っていて、町の人達が1つになって盛り上げよう、ということが伝わります。おもてなしのような、町の人達が色々なことをやってくれます。1キロごとに趣味の演奏をしたり、色々な知恵を出しながらやっている大会には、人が集まります。
- ・下諏訪町のイベントは、がんばっていると思います。三角八丁も子どもの夏休みもいいと思いますが、町民が他県の人達を呼べるようなイベントを作れば、子どもも女性も、色々な人の活躍を引き出せると思います。特徴を活かした下諏訪町ならではの、というのができれば、人も集まって、みんなが活躍できる場が広がると思います。

(町長)

- ・下諏訪ならではの、という発想は大切で、ボートは長野県で諏訪湖でしかできません。町

民レガッタとして始まった大会は、今、町民より町外から来る方達が多くて、大満足して帰っていきますから、そういったものを町全体で迎え入れる形がとれたらいいと思います。お祭りに自分が参画して、おもてなしをするようなマラソン大会は、小さな村でもあります。みんなで迎え入れるような雰囲気イベントができれば、いいのかもしれない。

(町 長)

- ・ 去年も防災訓練等で調理方法や防災食の指導をしていただき、子ども達が積極的に参加してくれました。楽しそうにやっていたのが印象的で、ああいうことが大切ですよね。

(パネリスト)

- ・ 子どもの防災教室は、どんなふうに入っていったらいいのか悩みました。小学校5年生のジュニアサバイバルキャンプでは、災害がものすごく怖いもので、ライフラインが途絶えた中で生活が困難になるよ、と脅すような防災教育では、ついてきてくれません。去年は、アルファ米を水で戻したり、パッククッキングでオムレツを作ったりと工夫しました。この間、可愛らしい中学生の女の子が、にこにこしてお辞儀をしてくれました。後で考えたら、去年の防災訓練の防災食講座に来てくれた女の子でした。子どもには、楽しいことや、はっと目を見開くような驚きの中で災害を学ぶ入り口を作ってあげたいと感じました。
- ・ 東日本大震災では、小さな子どもが津波ごっこをして遊んだことを、大人が怒ったといえます。児童心理の先生に言わせると、子どもは、心の傷をごっこ遊びを通して消化していく、遊びを通して体験の傷を癒していくから、遊びを止めてはいけません。そう書かれた本を読んで、確かにそうだなと思いました。小学校の高学年や中学生が小さい子どもと遊んであげて、子どもの笑い声が響くような避難所運営が目標の1つです。今年の総合防災訓練では、どうやって小さい子どもと遊ぶか提案したいと思います。

(町 長)

- ・ 正に女性ならではの視点だと思います。避難所で大人が子どもを叱りつけて、委縮している子どもの姿があるという話を聞きますが、女性の目線で被災者に対峙するということは、大切なことだと思います。女性会長として活躍されて、女性のメリットについては、どう感じていますか。

(パネリスト)

- ・ 70歳になる男性の相方と防災漫才をやっていますが、ものの見方や捉え方が男性と女性では少し違って、ちょっとしたものの見方や考え方の差、違いを笑いに変えるところを一番のメインにして台本を書いています。

(町 長)

- ・ 学校にも女性の先生が増えて、管理職としてまとめる立場になったときに、女性であることに對して、何か思うことはありますか。

(パネリスト)

- ・ 教員という職業は、男性、女性というより、人間性で勝負ができるのが、いいところだと思っています。苦手なところも得意なところもあるので、持ち味を出して学校経営をしていきたいと思っていますが、女性に機会が与えられない、男性の方が先に学年主任になっていく、そういうことが若い頃にはありました。今は、女性でも力があれば、若くてもそういった場を与えられています。役割や機会を与えられたときに、悩みながら力を付けていくことが大事だと思っています。
- ・ 校長として、女性らしさ、自分らしさをどう出そうかと思っていますが、人の話をしっかり聞いて、様子を見て、相手の思いに立って考える。その人にとって、学校にとって、

子どもにとって何が一番大事かを第一に考えていく。それが自分らしさを出すことかな、と思って、それを大切にして学校経営に取り組んでいます。

(町 長)

- ・相手に寄り添う、相手の話を受け入れることは、子どもであっても、教職員の皆さんでも同じだと思います。女性がキャリアを積んでいくためには、子育ても乗り越えていかなければいけない。子育て支援の在り方や、教職員の皆さんが力を付けていくためには、どんなことが必要でしょうか。

(パネリスト)

- ・学校現場は恵まれています。産育休で9年間休んで、戻ってきたときに男性と同じように仕事ができるかどうかということがあります。母親であるけれど、学び続けることは大事なかな。子どもを安心して預けるところと、子どもの具合が悪くなったときに、安心して仕事を休んで子どもを見てあげられる、そういう環境を作ることが、女性にとって働きやすいのかな、と思います。

(町 長)

- ・そこが一番大切な部分で、女性でも働きやすい環境というのは、国も地方も力を入れていかなければいけない課題だと思います。

(町 長)

- ・女性が地域の中で声を発しづらいような環境があるんじゃないか、という指摘もありますが、女性の意見は、どう引き上げていけばいいでしょうか。子育て世代や女性が活躍するために、皆さんの意見が反映される形はどうあるべきでしょうか。

(パネリスト)

- ・女性は、家事や育児、色々なことで一杯一杯で、自分を発信する機会もなければ、自分から行こうという人も少ないと思います。様々な分野で隠れた才能を持っている方が大勢いると思いますが、待っていても手を挙げてくれる、一歩踏み出してくれる、というのもないと思います。地域や隣近所でも、そういう人達を引っ張り出して活躍させよう、声を掛け合って、一緒にどう、ちょっと協力してみない、とか、誘い込んであげて、輪を広げていければいいかなと思っています。

(パネリスト)

- ・若い世代の人達が忙しいという印象があります。仕事も男女均等にというとき、女性にも同じくらいの仕事をさせましょう、という雰囲気になってしまっていると思います。町に要望するとしたら、お母さん達の忙しさを受け止めて緩和できるようなこと、活躍の前段、土台として、忙しさを一緒に共有したり、背負ってあげるようなことをしなければいけないという気がします。若い人もイベントを手伝ってくれていましたが、仕事が忙しくて、と断られることが多くなってきています。子育てに加えて、親の具合が悪くて、という感じで、昔より人を集めるのが難しくなっているのだから、余裕がないのかな、と思います。生活の基礎を安定させて、余裕が出れば参加もできますが、夜会議があるものに出られますか、と言ったら、誰が子どもを見るの、となりますし、親が心配だから無理です、と言われるので、基礎的なところの支えが大事だと思います。
- ・うちの町に引っ越してきてくれた方々は、結婚する率が高くて、結婚して子どもが生まれると、せつかく自分の作ったお店を一旦辞めなければいけないので、もったいないと思います。もう一度エネルギーを出してやる方が多くて、また戻ってきてくれますが、今度は、早くに保育園に入りたいということをお聞きしますので、そういうところを充実させていくのがいいと思います。地道な部分を充実させていけば大きい社会参加や、余裕が出たら子どものことをやってみよう、というものも出てくると思います。

(町 長)

- ・男女共同参画を言うときも、女性が家庭の中で非常に忙しい。男は仕事に出て、家庭を守るのは女性の仕事みたいなことが今までありましたが、各家庭で考えなければいけない部分もあるかもしれません。昔に比べれば今のお父さん達は、かなり協力的で、仕事をしてきて一生懸命家事を手伝って、子育てを見ているから、私達の若い頃に比べれば、がんばっているなと感じます。そういうことを進めていかないと、女性が活躍する環境が整ってこないかもしれません。

(町 長)

- ・「防災ネットワークしもすわ」に女性会員が少ないということについては、いかがでしょうか。

(パネリスト)

- ・女性会員は15%で、毎年1名ほど、子どもさんの出産で会を離れる会員がいます。その中で、子育てをしながら、子どもとかけがえのない時間を過ごしながら、ある程度になったら「防災ネットワークしもすわ」に、その経験を持って帰ってきてくれたらいいな、と希望していますが、そのときに、すんなり入って来られるような会の在り方を模索しなければいけません。小さい子どもとお母さんに向けて、防災の語り部になっていく中で、またあそこに戻りたいな、と若いお母さん防災士が思ってくれるようにすることで、戻ってきてくれるのかな、と期待しています。

(町 長)

- ・女性に防災意識を持ってもらうために色々な訓練がありますが、女性に活躍していただくには、どういった形がいいと思いますか。

(パネリスト)

- ・ライフラインが途絶えたら、どうやって生活していくのか。子どもにどうやって食事を提供して、安全安心な家を復興まで維持できるのか、という問いかけと、女性として生活者として、新しい提案やアイデアを生み出せるような土壌を作っていくことが、女性防災士を成長させるノウハウだと思っています。

(会 場)

- ・女性が子どもを育てながら仕事を続けるためには、制度が充実していないと。先生方は女性が半分いて、もっと力を発揮できる人達がいるのに、15%とか20%しか、そういう立場に立てない。町長にも話をしましたが、もっと女性の課長をと言うと、女性がしり込みすると言うんですね。女性の意識という点では、どうなのかな、という部分があります。先生になる人達は意識も高く、続けられるという点はあると思いますが、意識の面でどうか。制度の面では充実しているから働き続けられる。

(パネリスト)

- ・女性の中でも、教頭や校長になってほしいと思う先生がいます。そういう先生に50代のときに声を掛けても遅い。将来の管理職として、30代の後半から40代のミドルリーダーと言われる先生達を育てていく。研修会を行い、立場を与えて育てる、女性の管理職は女性で育てる、ということで取り組んでいます。

(会 場)

- ・今までの区長で、女性はただ1人です。女性の町内会長は今年、四王に1人。女性が町内会長になれば応援できると思います。そういう土壌を作って、下諏訪には、女性の町内会長が半分いるくらいの勢いで、それぞれの地区で女性を推薦していただければ、ありがたいと思います。応援は精一杯いたします。そういうまちづくりをしてもらいたい

と思います。

(町 長)

- ・ 地域がそれを認めてくれることも大切です、そういった気概を持った方が地域の中に育ってくれたら嬉しいと思います。
- ・ パネリストの皆さんは、女性としてだけでなく、自分がやらなければいけない、という意識で関わっていただいている皆さんです。そういった方達が増えていってくれたら、この町は素晴らしい町になると感じています。女性だから男性だから、ということではなくて、性差なく地域で人として活躍できるような、そんなまちづくりを進めていきたいと思っています。